

どんでん返し

ヨナ書 1章～4章

ピノキオ



ヨナ書 1:1~2

主の言葉がアマタイの子ヨナに臨んだ。「さあ、大いなる都ニネベに行つてこれに呼びかけよ。彼らの悪はわたしの前に届いている。」



ヨナ書 1:3

しかしヨナは主から逃れようとして出発し、タルシシュに向かった。ヤッファに下ると、折よくタルシシュ行きの船が見つかったので、船賃を払って乗り込み、人々に紛れ込んで主から逃れようと、タルシシュに向かった。



ヨナ書 1:4

主は大風を海
に向かって放た
れたので、海は
大荒れとなり、
船は今にも砕け
んばかりとなっ
た。



ヨナ書 1:5

船乗りたちは恐怖に陥り、それぞれ自分の神に助けを求めて叫びをあげ、積み荷を海に投げ捨て、船を少しでも軽くしようとした。しかし、ヨナは船底に降りて横になり、ぐっすりと寝込んでいた。



彼らがヨナの手足を捕らえて海へほうり込むと、荒れ狂っていた海は静まった。(1:15)



主は巨大な魚に命じて、ヨナを呑み込ませられた。ヨナは三日三晩魚の腹の中にいた。(2:1





ヨナ書 3:1~3

主の言葉が再びヨナに臨んだ。「さあ、大いなる都ニネベに行って、わたしがお前に語る言葉を告げよ。」ヨナは主の命令どおり、直ちにニネベに行った。ニネベは非常に大きな都で、一回りするのにも三日かかった。



ヨナ書 3:4~5

ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。」すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者も低い者も身に粗布をまとった。



とうごまの木を生やしてくれた！



「まして、わたしは、この大きな町ニネベを
惜しまないでいられようか。」

ヨナ 4:11



ヨナの主張

- ① 神は厳しくあるべきだ、やたらに甘いのは神様らしくない
- ② イスラエルは神の選民だから、イスラエルを助けるのが神の義務だ
- ③ ニネベはイスラエルの敵だから滅ぼされるべきだ
- ④ ニネベが助かるのなら、自分が怒るのは当然だ

神の当然

- ① 一人の滅びるのも、み旨ではない
- ② イスラエルは神の選民だが、特別なひいきはしない
- ③ ニネベは確かに悪だが、悔い改めることによってその悪は帳消しにされる
- ④ 良く考えてごらん、この憐れみがあつたからこそ、私はあなたを嵐から救ったのだよ

I コリント 13:7、8(新改訳)

すべてをがまんし、すべて
を信じ、すべてを期待し、す
べてを耐え忍びます。

愛はいつまでもなくなること
はありません。

マタイ5:44~45

敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。

悔い改める



私たちも悔い改めよう。

悪事を犯したことを悔いるとか反省するという意味ではなく、本来生きるべき場に帰る事です。「方向転換する」

神様との愛の交わりの中に帰る事です

- 「考え方を変える」
- 「からだの向きを変える」

ヨハネの手紙1 4:10

わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。